

『未来を創る教育のあり方』

～若者の声から考えよう～

将来の国のあり方を左右するのは言うまでもなく教育ではないでしょうか。20世紀のパラダイムが大きく変わろうとしている今、これからの教育のあり方について、次代を担う20代の若者たちと、ゆとり教育の生みの親である寺脇研さんが、熱く語り合います。さらに後半には会場の皆さんにも参加していただき、「社会で必要となる能力」や「教育における学校の役割・社会の役割」など、2030年に向けて教育が目指す姿を皆で考え、共有したいと思います。多くの方にご参加いただけることを期待しております。

ファシリテーター

寺脇研氏 (京都造形芸術大学教授 「カタリバ大学」学長)

パネリスト (20代)

小野美由紀氏 (慶大6年「道塾」PRスタッフ)

黒沢一樹氏 (中学卒 NPO法人若者就職支援協会理事長)

澤田晃宏氏 (高校中退 フリーライター)

古田雄一氏 (東大3年「わかもの科」プロジェクト代表)

ディスカッション

パネルディスカッション/パネリスト×会場参加者 Q&A

司会・進行

和田友江/小川可織 ("2030ビジョン"プロジェクト)

2030
ビジョン

日時: 2010年1月17日(日)13:40-16:40

場所: 田町 港勤労福祉会館 TEL 03-3455-6381

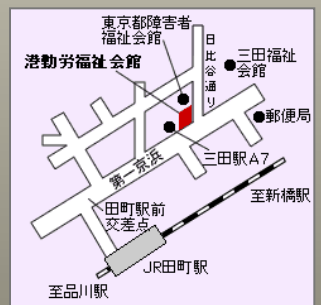
プログラム: 13:40- スターティング
13:50- 寺脇研氏基調講演
14:10- パネルディスカッション
15:30- 会場からの意見交換
16:30- クロージング

参加費: 無料

★フォーラム終了後、懇親会(実費)も予定しております。

申込み: 下記ホームページから

問い合わせ先: 090-9680-0152



JR田町駅三田口徒歩5分
都営地下鉄三田駅A7出口隣

ファシリテーター／パネリスト プロフィール

寺脇研氏（ファシリテーター）

◆京都造形芸術大学教授／NPO「教育支援協会」チーフコーディネーター／私塾「カタリバ大学」学長

◆1952年福岡県生まれ。東京大学法学部卒業。文部省入省後、初等中等教育局職業教育課長、広島県教育長、高等教育局医学教育課長、生涯学習局生涯学習振興課長、99年より大臣官房政策課長を経て、2001年から文部科学省大臣官房審議官。仕事面では、総合学科高校の創設、業者テストの追放、偏差値の廃止、放送大学の普及などに取組んできた。その活動は役所内にとどまらず、全国の学校を講演してまわり、映画や落語の評論家としても有名。NPO日本映画映像文化振興センターの一員でもある。著書に『なぜ学校に行かせるの？』（日本経済新聞社）、『中学生を救う30の方法』（講談社）、『どうする学力低下』（PHP研究所 共著）、『21世紀の学校はこうなる』（新潮OH！文庫）など。

小野美由紀（24歳）

◆現在の所属：慶應義塾大学文学部仏文学専攻6年／人と勉強法に出逢う塾「道塾」PRスタッフ／NPOカタリバ ボランティアスタッフ

◆略歴：

大学3年でカナダ留学後、より広い世界を見たくなり、資金を稼いで世界一周1人旅に出発。インドから南米まで22カ国を旅する。その後高校生へのキャリア教育NPO「カタリバ」で広報担当学生職員を務める。ダイヤモンド社「女子大生スペイン巡礼記」連載。現在は大学生による電話での学習指導塾「道塾」でPRスタッフとして働く。日本全国の中・高生の「自分をひらく力」を育てるべく、教育の新しいカタチを創るため全力疾走！！モットーは「la vida es el carnaval(人生はカーニバルだ！)」

◆参加者への一言：子供にとって「他者との出会い」ってどれくらい大切だと思いますか？自分の子供に、ちょっと年上の誰か（大学生など）と話すことを勧めたいと思いますか？どんな場であれば、安心して話す機会を子供に与えられるでしょうか？私たち大学生も、ひとつ下の世代のこと、真剣に考えてます。

黒沢一樹（28歳）

◆現在の所属：税理士事務所勤務コンサルタント／NPO法人若者就職支援協会 理事長

◆略歴：

・最終学歴中学校卒業。

・現在、税理士事務所に勤務する2児の父。

・新聞配達や飲食業、営業、肉体労働など40社以上での勤務経験を活かし、NPO法人若者就職支援協会の発起人として、仲間とともに若者にフォーカスした活動をおこなっている。理事長として奮闘中！最近には特に、高校中退者の貧困率に関心があり、そこへの活動を増やしたいと感じている。

◆参加者への一言：『学校に何故行かなくちゃいけないの？』『仕事は何のためにするの？』と子供に聞かれたら何と答えますか？教えてください！！答えが出なくても、参考となる議論ができればよいと思っています。みなさま、受容の精神でよろしく願いいたします。

澤田 晃宏（28歳）

◆現在の所属：朝日新聞出版「AERA」契約記者

◆略歴：高校中退後、工事現場アルバイトなどを経て上京。出版社勤務を経てフリーに。朝日新聞出版「AERA」を中心に教育問題、雇用問題を取材する。

参加者へ一言：父親の仕事内容を説明できる学生がどれだけいるだろうか。駄菓子屋がコンビニに変わり、「危険だから」と公園から遊具がなくなり、給与が銀行振り込みになるなど、かつては家庭や地域の中にあった「大人になるキッカケ」がどんどん奪われている。2010年度の新入社員研修で人気のある講座は「常識講座」だという。学校は社会に出る手段であって、目的ではない。かつては学歴が人生を保障（目的）したかもしれないが、そんな時代ではない。ロスジェネを中心に総中流社会崩壊後の生き方モデルを作る動きもある。新たな学びのインセンティブを学生に伝えていく必要があると思います。

古田 雄一（22歳）

◆現在の所属：東京大学教育学部教育行政学コース3年／「わかもの科」プロジェクト 代表

◆略歴：

中学校まで日本で過ごした後、高校はアメリカの現地校へ。高校卒業後、帰国子女入試にて東京大学文科三類に入学し、教育学部へ進学。「教育」に強い関心があり、大学で学びながら、学外で様々な活動に参加。大学3年になった今年の8月に、高校生を対象に、「身近なことから社会のことまで、ちょっと真剣に考えたり、学んだりしてみよう」という大学生発の“特別授業”を高校に提供する「わかもの科」プロジェクトを立ち上げ、活動開始。これからの教育、そして社会のありかたを日々考え、学び、精力的に動いています。

◆参加者への一言：社会が複雑化し、何が正しいかわからない時代。社会のことは他人事ではなく、みんなで社会のことを考えていかないといけない時代。そんな時代を生きる次の世代の子どもたちに、今教育を通して何を伝えていくことが大事なのでしょう？この問いに対する「正解」はありません。けれども、今できることはきっといろいろあるはず。僕たちも、自分たちにできることの1つとして、この「わかもの科」を始めました。当日は、ぜひ皆さんと一緒に、これからの教育のあり方について考えられたらと思います。宜しく願いいたします。

主催：“2030ビジョン”プロジェクト

“2030ビジョン”プロジェクトは一般市民(生活者)の視点で知恵を出し合い、「誰もが未来に希望を持てるような“2030年の国のありたい姿”を考え、広く共有するとともに実現してゆく活動です。是非皆さんも私たちと一緒にビジョンを考えてみませんか？“2030ビジョン”プロジェクトの活動に興味を持たれた方がいらっしゃいましたら下記連絡先までご連絡ください。

HP: <http://www.2030vision.jp/> 連絡先: 2030vision-owner@yahoogroups.jp (代表: 中山)